

東作旨急務中と決し一言傳ふやうに
中たうれしき事下り約とせやめおの折へ歸
著る中いとおぼし中作事

一 主君方夜討も無く事静ふおぼし中いさ
六月十三日いさくおぼしく秀吉陣處を
所立出る處い所馬の先手八中川瀬兵衛と
高山右近塩川黨二三人但是る小身人也
此衆中者何も切者人ありは事ごとく下知
見合方之右郎殿より信付大形付といと聞え中

作う是に所舎弟小一郎後信勝様一手下り此加
りりし事

一 所旗本ハ所小姓元江馬廻り峰須賀彦右衛門
黒田官玄衛所くくそ外能成中る也

一 光秀方より毛山崎北東所の町一らまへ人
數を打出—手に備をたてし處より山崎松山
へ所智珠院大將を彼雲山へけり—を—を—
とや孫正久見事—侍のた里か市乃目高
所へ引うけ志—の—を—を—を—を—

孫平次能時分と計ひ申し申と申し其前
 孫平次銃炮と申す自身討留たりあり
 ざいとどの弓手め手へ云葉と申けとや
 うてや者とともと下知しと心と知りたれ
 たり一度り法らんうけ先下へ討掛を遣は
 明智方此銃炮を一討をふしうはたまた人
 申しとらと海より是事と云とて敗北を
 よりと孫平次銃とら入とれをといと阿多
 今孫秀吉馬の先手尻銃合中と申し

く日向備法と云は巖一町計り引志りそく
 處とまゝ先手詰懸戦とて秀吉味方
 ともや可押掛と申し石味方此銃の石法を
 乃不働程り馬馬印ふくを法活けは
 此銃より又敵を法きたくといは自身右
 六とて後詰を被正龍寺におかまればや
 非る所とて押止し此おまゝと申すといふ
 幾と聞え中には孫平次山形手の孫平次と
 あり光秀人数も十文字と申掛破思ひ

抄のい教くふ兵部とて追討に押はる
おひまりし討た中儀と後桂川へ抄の
とめ川とてこれ死人数と法くはと聞之
中儀事

一 日向守光秀を馬廿騎計りて川と谷越し
江州坂本家跡を心掛小八幡へうりて
谷越え馬此の谷と引向うを中儀
とめを主従三騎に集りてとて乃百姓
とて先と志とて物より此者も馬上の光秀

と法くはと抄とて二人の頭と中儀事

一 秀吉を法を能かりて追討とてせ三十三間
たうに抄とて掛人馬此息と暫休め
とてあより方より追討の頭馬中儀と
法見うを持泰仕頭数六七百とや可と
おれり此とて明智頭溝尾少佐頭と
まより此小姓の頭以上三百百姓持と
と法見うを中儀と何方より討と法と
法見ありて中儀と志と谷越りて中儀

處と二奉松乃下もくぬけ仕はと中上と知
はくはむく海と取らせとやとく則と上と後
預とはさかたうい法多れとくあませととて
所と栗田口河原とにうちよとの所意あり
はくは後悦乃務ときとあけよとてと度開
けうり目と度おととゆりと事

一 堀久右郎及と所と法成法意は明智孫平次
事安土の仕置り光秀孫一ととせえたり
善坂守乃城へもやうち入るるあり大津

乃所と陣は取ととらにて侍と孫平次お
て能なるあくは町とく取と法討果よとや
くとありは久右郎及大津をさして
急き孫の世とさうり所身と法入所引下と
おと法入り所陣とりありと世ありとく娘地と
出整とく此侍者と被とか番法元と法何と依
子細と組ととせんさくせよ頼ととてとと
お侍と可有と有此まに中上との所意
あり組と所着到とにお侍数と人ありと所意

予ハ煩リハ不審無之なりたゞ一為る不審
 事不若以出陣乃日糸物中ハ巧とふた
 物と巧と不叶と中不獲かろ世安人の間自
 今以後乃見せ一此を免るハ腹ときき留
 頼を免く糸と此涉意あり此者ハ煩如く
 命後をも不存候とて落し此兄此杖ち
 乃さして不可中分跡枕不知病人と及糸頼
 を免ゆと此堅涉意あり承り死下り安

津の國一此谷とく糸物何とく此乃糸上
 者ともこの合替是もく此やまといとて
 此より能なる煩者ヲ待請痛發す此在候
 得とわり此と涉候下り此下とて七
 人乃頼を免る上いかくと中上は我者とも
 名思款や三十三間の茶とく夢換とて
 一此智者の頼小押せ世控よき候時とあ
 よと此涉候とくも頼三十三間、款乃頼と
 一にきくは是の事

一 明永十四日孫平次安去能城より坂本の城へ
 うけ可入た免り赤宅所を激田より山岡谷
 被出向瀬田乃橋中程に燒草とかけし處り
 日能程より此路より激田まゝく孫平次宅に
 橋と隔るる所の旗炮軍きひしく孫平次
 家より孫平次下知ししく町の桶澤と
 こ城取らせよ煙子給水とかきよき内所屋と
 出母させよ柱たきとを孫平次東地れ手前法
 よくのみたきとを孫平次西の山岡方を

少し引退し給を橋を二間よりり此板敷
 うつ中いし内町乃きのかしはなれよせ
 水法をそこし孫平次をゆきまを法を
 如希さしはくくを孫平次し海の光り
 弓旗炮乃者とも乃若たふ対れまを里
 事しとを河川免し海先子堅ゆいつ事被
 羽織り水をゆきませ力をたつ事と二間
 毛上もなきかともお選たはしはくく
 多を法多お多程を火毛よる法とひく

柱二三本も繩もくはさたたくをまくと
 おうけまへ上へ置と打掛くふんねく
 人馬と打渡し勝と死と何多きことを難
 なくと留め多おれなる海とより大津乃
 町へうへと市はう清手此堀久右郎後まら
 う中人堀監物下知し事言龍と安り鑑
 太刀討中くまより火花とちくはと聞え中ひ
 何進かをも大勢ふ少勢孫平次孫つとまくとふ
 たり事討果不叶とやおまひん孫平次

東より入口此町とつ連へ馬の頭を引向海へ
 さ川と馬と案こみうたぬ沈たよかせ
 少郎久右郎後方うはいまや沈くと面
 白くより見物しとく何とく系安子孫平次
 馬此とくつふととね進さんまへ案はり
 鞍の後輪より手繩と石舟志賀唐崎乃一ッ巻
 をめくへ何し弓手へ迫く馬の頭を引む少
 ちや陸も迫く見えしうは久右郎後下知
 たりはちやく見物不けんはたれとや海道

筋へきりし急素着よあまほふきりき
ちし下知して追掛させ給ふ所小弥平次
ふんねくとも侍へ素上若へとんでおりふ心
道を見渡せし馬上の者四五十騎より我
先しと給とちやむふ見え及ふれぬ款の間
八町計りと見え及ふ事

一 彌平次心よりおのれ格付馬逸物ありき
ゆへとも安古山より素出たる馬ふれぬ
ちやほはう進みんかんとり馬ハ素殺まきりき

外を急きき見えぬおるれは是よりきり
急子素着し一度屏風返しにひつたちや
たと款をたふれぬ款三町程近付くちや
は知へふとるしと定息合とるちや
ゆねくとおの馬此息とほのち款三町
外へきりし見えしは又お素着ちや
きり八寸一文字より板本此城へお入城と有
ち款申間さく二三人よりいせけ馬はくち
款へ可渡ありしお馬乃悪情後をきりき

志なきも一き也物と不可個頭高小智たて
 置鐘をいさひききへ〜と〜と〜と〜と内院へうあ
 入つゝ免たふ澄をと大此上子ぬら至る事
 此後身と自由に可傷た免と相ゆ〜中作事
 一 此馬も信濃たちや悪麻乞子くた布式寸
 七八分あり井上麻乞と云や後りはいたや
 麻乞と中や
 一 城中りは孫平次を見付上下に氣ま〜と
 みと後あふ中事か〜りあ〜と〜と後所

〜りあ〜と〜と仕〜と人数丈ま〜は〜と
 去り〜と〜と〜と〜と〜と後ゆは布と
 免と勢持〜と食〜と〜と〜と〜と
 乃薬を阿多きせて〜と〜と〜と〜と
 きはともや城を事分程を免をさるり奇手と
 堀久吉郎也孫平次成て〜と〜と〜と〜と
 ま〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 鉄炮を討城を持つゝ免たは格り款に〜と
 うけ又〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

巧く所國行の刀右光此秘指きたる乃要法
是を秘の物り色之目錄を添心うふとせ
乃人くく一中以極監物及是と此渡よ此道
具名私あつ世事天下能及々物まは是く
女川一作の事孫まはとく志やくぶんと
可思石以皆未渡一中作とく極まより下へ
おと一中以事

一 稍多く極監物及の事は如也目錄少一も
是か遠陰取中作申度子細れいとや日向

身及内く秘藏を秘に志人のよりゆり此
若廣江乃也腹指を以うふと尋中作處り
弥平次返の事は右く道具ハ上極より
日向持領は仕に持道具也秘藏乃吉廣江
能極さ一中久方郎及之外の大名衆は存
秘藏之國破つ時子朝倉及此物事はとくに
片して此作と後小日向を以持少子岡初一是
我をもたは是置に相渡り中以はと光秀命
を海と也中内く秘藏を仕に間我多孫り